

サヌカイト演奏と花火の夕べ



去る7月31日(土)徳成寺において、寺ともサービス「サヌカイト演奏と花火の夕べ」が開催されました。連日の猛暑日が続く中、オリンピックの盛り上がりもコロナ禍もしばし忘れてサヌカイトの音色に耳を澄まして涼んでもらえればと企画致しました。2007年から始まった寺ともサービスの歴史上、初めての夜の開催ではありましたが、各地からこんなにたくさんの方がお集まり下さいました。サヌカイトが人々を引き付ける不思議な魅力を実感しました。

演奏は、3年前サヌカイトの音色に魅せられ、京都から移り住んだ新田とよ子さんです。サヌカイトを原料にして演奏ができるように作成したサヌカイト陶琴は、新田さんによると、弾くとマイナスイオンが発生するらしく、家の中の空気が変わるそうです。高松市民には毎夜10時に鳴る鐘の音でお馴染みの一曲「遠き山に日は落ちて」の演奏から始まりました。聞いていてとっても心がなごみました。ご先祖を思い起こしての曲目「アメージンググレース」や、



ご縁をテーマに、中島みゆきさんの「糸」の演奏もありました。演奏終了後は、参加者の皆さんが初めて見るサヌカイト陶琴なるものを実際に触れる機会が設けられました。何人かの方が、即興で演奏し、腕に覚えのあるところを披露して下さいました。ビックリしました。



最後には花火をそれぞれに楽しみました。何十年かぶりだと言う方や、高松まつりの花火が今年もないので楽しいと言う方もおられました。皆さん童心に帰って、真夏の夜のひと時を過ごしました。これでコロナも猛暑も乗り切れそうな気分になりました。

